

第6回新生公立鳥取環境大学設立協議会 議事概要

日 時 平成23年8月9日（火）14：50～16：00
場 所 鳥取県庁本庁舎3階 第4応接室
出席者 鳥取県：平井知事、横濱教育長、高橋企画部長
鳥取市：竹内市長、中川教育長、松下企画推進部長
鳥取環境大学：八村理事長、古澤学長、谷口常務理事

○平井知事あいさつ

- ・新生公立鳥取環境大学では、先般、大学に対する期待が手に取るようによく分かったイベントがあった。
- ・オープンキャンパスが先週末に行われ、バスも満員で、東は兵庫方面。西は島根、米子、倉吉方面。南は四国、岡山などから、各地の子ども達や保護者、関係者の方がオープンキャンパスにお越しになられた。
- ・新しい公立大学という別のステージ、更には2学部2学科の新しい体制となり、山陰で唯一の経営学部が新設される。
- ・これまで我々が目指してきたところに、マーケットである子どもや保護者、学校関係者の皆さんが集まってきた訳であり、今まで以上に自信が持てる状況が生まれてきた。
- ・それだけに、我々の責任は、なお一層、重たくなってきた。
- ・これからは、こうした期待を裏切らないように、なるほど立派な大学だった、入ってみて人生にとって大きな意味のある大学だったと、また、社会の皆さんからは、あそこの卒業生は使えるし、確かに頼りになる、研究の成果もしっかりしていると、このようにいろいろな成果を求められるようになってくるだろうと思う。
- ・お集まりの皆さんと私たち皆で、是非とも新しい大学のすばらしい姿を作り出していないといけないと思う。
- ・これから、最初に鳥取市議会があり、遅れて県議会が開催される。
- ・9月議会で、それぞれにこの大学の骨組みを提案していないといけない。
- ・先般、文部科学省から、学部改編について、快諾をいただいたところであり、後は、我々が動くだけになった。
- ・そのためにも定款を作って、公立の大学法人を設立し、これからの経営の見通しの上に立って大学を運営する体制を作り上げないといけない。
- ・今日は、是非、皆様に話をしていただき、これからの準備の最終段階に向けてエネルギーと土台を作っていただきたい。
- ・限られた時間であるが、皆様の格別の御協力をいただくことを心からお願い申し上げ、開会のあいさつに代えさせていただきます。

●事務局

- ・9月議会に向けて様々な議案を提案したいと思っているが、本日は、公立大学法人の

経営体制、財産の取扱いなどについて、御審議、御議論いただきたい。

- ・それでは、議事について一括して、説明させていただく。

●中山局長

資料1から8まで説明（略）

○谷口常務理事

資料9説明（略）

○竹内市長

- ・全般的に、このような方向で、順調に公立大学法人化の体制が整う事を期待している。
- ・実務的な話であるが、9月議会の段階で議会の議決を得なければいけないところについて、確認させていただきたい。

●中山局長

- ・今回、議会に議決をいただきたいものは、鳥取環境大学の定款が1つある。
- ・次に、公立大学法人鳥取環境大学運営協議会及び公立大学法人鳥取環境大学評価委員会の設置に係るものがある。
- ・あと、財産の関係で、寄附の受納と出資というものがある。資料7で財産関係の扱いということで1本にまとめているが、この中に鳥取環境大学から寄附を受け入れるという議案と、県と市が公立大学法人に出資をする議決がある。
- ・併せて、資料7の2ページであるが、地方独立行政法人が重要な財産を譲渡したり、担保に供するときの設立団体の長の認可の範囲がある。県の方は、産業技術センターがあったので既に設定しているが、市の方に設定がない関係で、今回それぞれの協議を基に、県条例と同じような基準を設定するものである。
- ・これらの5本が今回の議会で議決をお願いしたいものと考えている。

○竹内市長

- ・了解した。市議会は9月2日から始まるが、計画を立てて、個別の議案として十分に説明体制を整えていく必要がある。
- ・議案となった形でチェックをして、議会に対して市として十分な説明を行い、適切な審議、可決が得られようにしたい。
- ・議会との細かいすり合わせは、これからの作業になると思うが、私としては、公立大学法人化を自らのマニフェストに掲げて取り組んできた立場であり、基本的にこの方向性に対して十分な理解を示してきたので、その辺は具体的に進めたいと思う。
- ・それから、今年はオープンキャンパスに出かけてきたが、大変手応えを感じた。
- ・数が多いだけでなく、真剣に参加しているようであった。
- ・学食で食事もしたが、多くの人が出てきて、キャンパスライフをオープンキャンパスの中で体験してみようという姿勢が伺われた。
- ・今の調子で取組を進めれば、多くの入学生を確保できると思う。

- ・同時に考えたのが、それを引き続き継続させることと、一方で、就職の方が大変厳しい状況にあるので、就職について、今の卒業生からしっかりと取り組んでいただきたいということである。
- ・就職については、厳しい状況にあるが、環境大学に課せられている大きな課題であると思う。
- ・公立大学法人化して入学者は増える傾向にあるかもしれないが、今後は、就職での評価が問われてくると個人的に認識している。
- ・今日の議題ではないが、その点の共通認識をもって取組を強化したいと思っている。

○平井知事

- ・2点質問させていただく。加えて、今市長が言われた就職のこと、また、今後の進め方のことについて話をしたい。
- ・1点目であるが、定款を議会にかけるが、趣旨が少しぴんとこない。
- ・資料の書き方が悪いのかもしれないが、理事長の任期は、2年から6年の範囲内。それで、学長選考会議の議を経て決めると。ただし、最初の理事長任期は2年とすると。
- ・これには付記があり、副理事長、理事についてはその付記がなく、6年を超えない範囲で法人の規程で定めると。
- ・場合によっては、理事長より副理事長の任期が長くなる。本当かなという気がする。
- ・任命のところを見ると、副理事長と理事は、理事長が任命すると書いてある。
- ・理事長兼学長を決めるということは、重い意味があると思う。
- ・そのためにこそ、学長選考会議を置くということであり、どういうメンバーになるのか分からないが、その学長選考会議での議論に基づいて、最初の理事長任期の2年から6年の任期の範囲内で決めればいいのか。
- ・定款の中に、最初から特例任期をあらかじめ書いておく必要があるのか。学長選考会議の議論の中で決めて、理事長の任期の範囲内で、副理事長、理事の任期を決めて任命するのが本当ではないのかと思う。
- ・理事長と他の役職員との定款上の規定が齟齬しているように思う。
- ・2点目であるが、議決案件の中の鳥取環境大学設立後の重要な財産であるが、土地は2万㎡以上ものだけ設置者である鳥取県、鳥取市の認可を得ることか。
- ・これは、産業技術センターに合わせたということがあるかもしれないが、他の大学ではどうなっているのか。2万㎡以上というとかなり大きい。
- ・2万㎡までは、両議会の議決が必要ないと。議会の議決というよりもむしろ認可すらいらぬということである。
- ・これが、単独の普通の県立、市立の公立大学であれば、小さいところから議会のコントロールが入ると思う。この基準が果たして妥当なのか、その辺の考え方を教えていただきたい。
- ・その他であるが、前回も議論したと思うが、これから9月、12月と議会で議論をしながら2月には当初予算を議論することになる。
- ・これは自治体側の事情かもしれないが、そこで議論する前提として、これからこのよ

- うに経営していけるという、安心できる姿を大学の方でも先行して作る必要がある。
- ・経営審議会なども先行してスタートさせるという話もあったが、この辺の見通しについて、9月議会が始まるに当たり、我々の方でも共通認識しておく必要がある。
 - ・第2点目として、今回、受験生について手応えがあったことは、非常に喜ばしいことだったと思う。
 - ・それと合わせて、地元の経済界。経営学部があるので、経済界。そうした県民全般について、市民に対してもそうであるが、説明会なりいろんなPRの機会を持つべきではないかと思う。
 - ・もちろん県政でもやるべきことはやっていくが、大学側としてもその努力があってほしいと思う。
 - ・それに関連して、このままであると、県外の子どもばかりの大学になってしまわないか。
 - ・県内の子どもが受験意欲を持ち、優秀な学生が集まるようにしなければならない。競争試験のやり方をどうされるのかよく分からないが、普通に考えれば、競争試験は同等にやるということだと思う。
 - ・そうなった場合、他の大学でも見られることであるが、地元の大学を実際に活用できるような仕掛けが必要であり、そのためには、周囲の予備校、県外の予備校だけでなく、地元での理解、県内へのPRをしっかりとすべきではないかと思う。これからの受験シーズンに備えていただきたい。
 - ・第3点目として、就職の関係で、これまでお世話になってきた方が残念ながら急逝をされた訳であり、その後をどうするのか。
 - ・別のところから伝わってきたところでは、人の目途を立てられたようだが、新しい公立大学に引き継いでいく過程で、就職スタッフをこれからどのように作っていくのか考え方を教えていただきたい。

●中山局長

- ・定款の関係であるが、説明を漏らしていたが、学長・理事長一体型の場合は、副理事長、理事の任期は、理事長・学長の任期と同一になっているので、理事長・学長と最初の任期は同じになる。
- ・理事長・学長の任期を2年以上6年と書いているが、副理事長、理事の任期は、法律上は一緒の形になっている。
- ・学長選考機関であるが、法律上、経営審議会、教育研究審議会から3名程度出して組織するとなっている。
- ・今回の理事長・学長の任期を定款で定めるのは、学長選考機関が公立大学法人化後でないと正式にスタートしないため、学長選考機関を経ない形で理事長を設置者が任命することになる。
- ・また、定款の中に年数を定めることが法律上要請されている。
- ・本来であれば、学長選考機関の議を経ての任命というのが公立大学法人の基本的なルールであり、任期はあまり長くない範囲でということが、法の主旨であるので、

最初の理事長・学長の任期期間として考えているところである。

- ・土地の関係であるが、高知工科大学の例を参考にさせていただいた。高知工科大学でも価格が7,000万円以上で、面積については2万㎡以上に限るとしており、この規定と整合を取った部分と、鳥取県の議会に議決付すべき契約、処分に関する条例についても2万㎡となっており、これと合わせたところである。
- ・ちなみに鳥取市では、予定価格が2,000万円以上の不動産で、土地については5,000㎡となっているので、今回は、県の方に合わせる形とした。
- ・その辺については、議論があれば、どちらかに合わせることもあろうかと思っている。
- ・それから、今後の経営体制のスタートであるが、定款の役員構成と併せて、役員人事のメルクマールといったものを、今回御議論いただく予定にしている。
- ・もし、このような作業を事前にとということで御了解がいただければ、このような役員、審議会委員のリストアップといった作業を、設置者と大学側と協議しながら、進めさせていただきたいと思う。
- ・定款等の議決が9月議会であるので、9月議会で定款なり審議会の設定がいただければ、9月議会後直ちに、このような経営審議会的なメンバーで了解をいただいた方々にお集まりいただき、大学の運営の中身を詰めていく作業を進めていきたいと思っている。
- ・就職の関係であるが、協議会の方で分かる範囲でお話しさせていただくと、関西方面の就職担当の後任には、パナソニックのOBの方をお願いをしていると大学からお伺いしている。
- ・予算関係では、来年度以降、公立大学化後の就職支援費の関係で増加経費を見込んでいる。
- ・可能であれば、大学の方で準備作業を進めていただき、現在の在校生に対する就職指導を今年度から強化をしていただきたい。
- ・また、来年度以降もお願いしたい能力の高い方については、公立大学法人に移行してもお願いして、就職体制を現在の大学から公立大学に引き継ぐような形をとらせていただけたらと思う。
- ・全般的な教育の面では、経営見通しのところでもお話ししたが、来年度は、ダブルスクールでの強化予算を組む計画にしている。
- ・そのような関係で、大手のビジネススクールなどとの実質的な協議等も始めさせており、公立大学法人が成立後、直ちにそのような強化したカリキュラムが組めるように準備作業を進めていきたいと考えている。

○谷口常務理事

- ・関西方面の就職担当には、大学でキャリアデザイン科目等の1講義を持っていただいたりしていた方に、早速お世話になっているところである。7月からお願いしている。
- ・学生の就職状況は大変厳しいところであり、特に鳥取県内は、東部地区を中心に就職専任の方を1人置いており、関西にも1人置いてある。
- ・我々としては、鳥取県西部や島根県、また、東京方面に就職担当の方を置き、学生の

世話をしていきたいと思っている。

○八村理事長

- ・今の就職の関係の話であるが、具体的にはパナソニック。人事・採用関係をずっとさ
れていた方で、関西ではかなり名の知れた人脈の広い人である。学生の方の指導にも、
いろいろと力を出していただけるのではないかとということで、お願いしている。
- ・新しい新生大学後の関係もあるので、とりあえず1年ということをお願いしている。
- ・それから西部についても、今までいなかったが、今探しているところである。
- ・どういう人にしたらいいか、具体的な名前はまだ挙がってきていないが、この方には
来年の卒業生に注力していただきたいと思っている。
- ・先ほどの知事のお話もあったように、公立大学化の話になってから、商工会議所でも
県西部の方の会員の関心が、ぐっと高くなってきた。
- ・商工会議所自体も、鳥取県の大学なのだから、我々も協力をしないといけないという
雰囲気が出てきている。
- ・したがって、このような点でもっと力を入れていかなければいけないと思っている。
- ・それから、今後の検討課題になると思うが、今回のオープンキャンパスでは、大体、
県外3、県内1という生徒の割合であった。
- ・それだけ県外の関心が高まっているということになるが、県内の高校生対策をきちん
と考えていかないといけないと思う。

○横濱県教育長

- ・オープンキャンパスの来場者数が増えて、とても喜んでいる。
- ・県内比率が3対1ということで、県内も増えてくるとは思っているが、さらに一層私
どもも話をしていきたいと考えている。
- ・蓋を開けてみれば、県外の入学者が9割ということではよろしくないなので、もう少し
手を入れたいと思う。
- ・7月の末に国際教養大学に行ってきた。
- ・実際授業も見てきたが、かなりレベルが高い。
- ・これまでも環境大学らしさの創造ということで、国際人材の育成ということがあった
が、語学については、徹底して鍛えて、鍛えたところで売り出していくという場面が
ないと、なかなか評価につながってこないと思う。
- ・また、そのようなことを子ども達も求めていると思う。
- ・語学で鍛える。英語プラス、ハングルなどの第2外国語も含めてやっていくと。ここ
まで鍛えるのだというメッセージを出していくことと、そのようなプログラム作りが
大事ではないかと感じている。
- ・このようなことも、地方で生き残っていきながら魅力を発信していく1つの方法では
ないかと思う。

○古澤学長

- ・語学の話があった。
- ・少しお答えしたいが、今回の新しいカリキュラムでは、英語はもちろん必須であり、他の外国語、ロシア語、韓国語、中国語についても、選択必修で必ずどれかとらないといけないということになっている。
- ・もう1つは、いわゆる多文化交流空間。この間のオープンキャンパスでも、ミニ英語村というものを作った。
- ・外国語だけで会話し、日本語は一切使わないという空間であるが、学生も50人ぐらい来場した。学生の興味も感じたところである。
- ・そのような多文化交流空間についても、今後作るつもりである。
- ・英語の大学ではないが、国際化ということをもっと頭置きながら、特に経営の国際経営というものを新しく作っているのも、そのようなプログラムの中では、外国語というものは大きなウェイトを占めていくものと思っている。

○横濱県教育長

- ・国際教養大学も外国語学部ではないが、全部英語で授業されている。

○古澤学長

- ・それから、オープンキャンパスでの鳥取県内の来場学生の伸びがあまり良くないところであるが、進学校の今の受け止め方は、学部は本当に変わっているのかと。或いは、変わるのかと。このような質問をされるような状況である。
- ・これは、学部・学科改編の届出が受理されたという報告のみで、こちらの情報の発信方法の問題もあるのかもしれないが、そのようなことは、しっかりと植え付けていけないと思う。
- ・それから、公立化は本当にするのかという感覚がまだまだ強い。
- ・更に、例えば偏差値。どのくらい高くなるのか。指導学生の学力との合わせ方が難しいというような、少し引いたような形。
- ・それからもう一つは、入学者はすごく多くなるだろうという、これも少し引いたような形。
- ・県民性も少しあるのかもしれないが、少し動きを見てからでないと動かないというような状況がある。
- ・動きがもっと見えてくれば、県内の学生も動くとは思いますが、最初はもしかすると、県外の学生が多く入って来ることになるのかもしれない。
- ・AO入試の説明会も行ったが、約75人来た。
- ・AO入試では14人しかとらないが、予想では多分120～130人は受験するだろうと思っているので、10倍近くの倍率になる。
- ・ただ、推薦の中に県内学生の推薦枠、いわゆる指定校推薦が入っているのも、約60人近くは県内学生を確保できていると思っている。

○平井知事

- ・是非、教育委員会や、私学との連携の中で、県内対策をもう少し徹底してもらった方がいいと思う。
- ・私も県外の熱気が随分感じられる一方で、県内の方は、どうも浸透がよくない。
- ・せっかく新しい大学に生まれ変わらせる訳であるので、県民に利益が還元されるようにしないとない。
- ・改めて、この夏以降、県サイドで行う部分もあるかもしれないが、大学と協力して、県内対策を行う必要があるかなと思う。
- ・それから、先ほどの説明で、定款上、理事長・学長の任期設定の経緯があり、学長の選考委員会がないから2年なんだという話があった。
- ・ただ、これから経営審議会の委員候補も挙げて行こうということであるので、それは学長選考委員会に当たるようなところの客観的な御意見も聞き、竹内市長と2人で調整し合いながら、ある程度合理性のある判断をしなければならない。
- ・さじ加減で決めて2年だという話でもないと思う。
- ・そのような選考委員会的なものを協議会の中で行ってもよいし、経営審議会を先行させる際に事実上作って、意見を出してもらう機会を作るなどしながら、定めていけばいいのではないか。
- ・その中で、公立大学法人設立後の最初の2年は初動であるので、経過措置的なことで行こうということについては、そのような御意見が出れば、それはもちろん尊重しながら、両設置者で話し合っていくということではないかと思うが、ここを明記する必要があるかどうか。

●中山局長

- ・国の方とも確認させていただくが、地独法上明記があれば、このような形でお願いできたらと思う。
- ・ただ、選考の形は、知事も言われたように、選考委員会的なものをこの中で組織させていただき、より幅広い意見を踏まえながら選考いただくというような形であると思うので、組織立てを検討したいと思う。
- ・この辺りの設計は、また協議させていただきたい。

○竹内市長

- ・引き続き議会との関係を意識した質問であるが、資料5の2ページに中期目標の制定・変更に関する議決というものがある。
- ・これは、今回9月議会に提案する5項目の中には無かったが、いつ頃予定しているか。
- ・確か3月の議会でと言われたような気がしているが、私の基本的な認識としては、これも早い内に明示することが必要だと思う。
- ・初めは案の形になるのかもしれないが、公立大学法人にするに当たって、中期目標は何かということは、早いうちに出して、説明しておく。9月なら9月でも。
- ・このようなことは、是非鳥取市議会において、市としても考えたい点であるので、そのような準備は可能か。

●中山局長

- ・事務方でいろいろ作業等を進めているところであり、完全なものではないが、例えば骨子であるとかあらましみたいな形で、設置者側がこう考えているというところを、議会等へ説明させていただければと思う。
- ・準備を進めさせていただきたい。

○竹内市長

- ・県は県で協議してもらい、市ともすり合わせを行いたい。
- ・基本的にはこういう方針であるというようなもので。

○高橋県企画部長

- ・できれば、9月、10月ぐらいの議会のタイミングで、骨子のようなものを一度お示ししたい。
- ・評価委員会のようなものの運営を立ち上げて、御意見を聞きながら中期目標を作らないといけないので。
- ・正式なものは年度末ぐらいになるが、議会に提案する前のものを1回議会にもお示しさせていただくと。

○竹内市長

- ・前広にといういい方になろうかと思う。
- ・このようなことは、基本的な事項でもあり、経営についての議会の理解と評価を得ていくことが必要である。
- ・中期目標では、経営のことや教育内容など、いろいろな部分が見えてくる。
- ・今議会では、定款などで法人の骨格を提示することになるが、肉付け部分があまり見えないので、その辺りが重要であると思う。
- ・それから、中期目標は、議決を得なければならないということになっているが、いきなりの議決ということにはならない。理解の浸透という問題もあるので、お願いしたい。
- ・それから、就職活動については、大学を挙げてというか、教員の皆さんにも、例えば専門分野の知識、人脈等の活用も合わせてお願いしたい。
- ・特に今の大学教育では、教育そのものだけでなく、就職の実現ということが非常に重要となっている。
- ・環境大学は、特に早い時期に就職に関し、いい成績を上げている状況もあるので。
- ・地元の経済情勢や日本全体の情勢があまり良くない状況であるからこそ、ここまで就職できるということを示してほしい。
- ・公立大学法人化した後の卒業生のことではないが、今年からしっかりと取り組むことで、相乗効果を上げていくと思う。
- ・就職について丁寧に指導するということや就職率が高いということは、公立大学法人

化した環境大学の評価に直結する事柄だと思う。

- ・この辺りは、くれぐれも綿密に、念入りをお願いしたい。

○古澤学長

- ・就職について、今の学生を別個に考えているわけではなく、教員のボランティアによるダブルスクールのものも立ち上げて1年以上経過している。今の学生を非常に大事にしており、教員にもしっかり対応してもらっている。
- ・就職については、このようにいろいろな角度から手を尽くしているが、それでもなかなか難しいというのが現状である。

○竹内市長

- ・学部学科の改編に伴い、知名度の高い、社会的な接点も広い、新しい先生が増えており、期待している。

○古澤学長

- ・毎日先生方にはいろいろ形をお願いしているところである。頑張っている。

○八村理事長

- ・学長にもそのような形で先生方を引っ張ってもらっている。
- ・しかし、以前と異なり、企業の採用体制が違って来ている。
- ・以前は、大学の先生が企業とのつながりを持ち、就職先も見つけていたが、今では理系でもそのようなことをあまり聞かない状況である。
- ・先生方にも、知っている企業を当たり、就職先を開拓してほしいといつも依頼しているが、なかなかその成果が上がってこない。
- ・しかし、だからといってあきらめるのではなく、今年から卒業生がどれくらい就職できるかということが、今後の新生環境大学に大きな影響を与える。
- ・一生懸命皆でやっていきたいし、何かアイデアもあれば教えていただきたいと思う。

○古澤学長

- ・現在の学生が、公立大学としての第1期生となる。
- ・経済事情も確かに悪いが、学生の質も落とさないように、先生方に必死をお願いをしているところである。
- ・今年の卒業生が新たな公立大学の評価となるので、この部分は、前々から気合を入れてやっている最中である。

○竹内市長

- ・地元の大手の就職口にもどんどんアタックし、公務員系統もどんどん受け、就職を勝ち取っていくというたくましさを身に付けて欲しい。

●事務局

- ・以上で本日の協議会を終了したい。
- ・本日いただいた意見を踏まえ、議案も必要な修正を加えて、9月議会へと提案していきたいと思う。

以 上